



# British Politics Today

2014年6月1日  
第3巻 第6号

著者 菊川智文,

www.Kikugawa.co.uk  
tomo@kikugawa.co.uk

## この号の内容

- 1 はじめに
- 2 新しい局面を迎えたイギリスの政治
- 3 UKIP 躍進の理由と今後
- 4 住宅価格が1日10万円上昇するロンドン
- 5 スコットランドの反イングランド感情
- 6 サッカー選手ジョーイ・バートン

## 2014年欧州議会議員選挙イギリス区主要政党結果

政党	議席数	得票率
UKIP	24(+11)	27.50%
労働党	20(+7)	25.40%
保守党	19(-7)	23.90%
緑の党	3(+1)	7.90%
SNP	2(±0)	2.50%
自民党	1(-10)	6.90%

SNP：スコットランド国民党

## 1. はじめに

5月22日投票、25日開票の、イギリス選出の欧州議会議員選挙で、73議席が争われた。予想通り、イギリス独立党(UKIP)が最も多くの票を獲得し、最多の議席を占めた。この選挙は地区別の比例代表制で行われ、下院の小選挙区制とは異なるが、保守党と労働党以外の政党が国レベルの選挙でトップとなったのは1910年以來のことであり、イギリス政界に「地震」を引き起こしたと言える。

## 2. 新しい局面を迎えたイギリスの政治

欧州議会議員選挙と地方議会議員選挙後の5月29日のことだ。サッカー選手ジョーイ・バートン(後述6.参照)がテレビ番組で、UKIPは4人の醜い女の子の中で最悪ではないような政党だと発言した。この発言はセクシズムだと物議をかもした。バートンは、主要3政党の保守党、労働党、自民党とUKIPを合わせた4党はいずれも醜いが、その中でUKIPが最もよさそうに見える、それで多くの有権者が支持したと示唆したのである。

この発言をバートンは直ちに謝罪した。確かに不適切な発言だが、筆者にはまさしく現在のイギリス政治の状況を表現したもののように感じられた。主要政党はいずれも魅力がない。一方、1993年に創設され、そのメンバーは玉石混淆のUKIPも、党の欧州議会議員の経費の問題や不適切な候補者など醜い面がある。選挙前、数週間にわたり、マスコミからこれらの問題を集中的に攻撃されたが、選挙結果に大きな影響を与えなかった。つまり、4党ともに醜い中では、それでもUKIPがましだと思われたようである。

欧州議会議員選挙の結果は左記の表のとおりである。イギリスのEUからの離脱を唱えるUKIPは前回2009年の13議席に11議席を加え、大きく議席を伸ばした。労働党は予想を下回り、保守党は心配されたほど悪くなく、緑の党は予想を上回り、自民党は予想通り悪かったと。

キャメロン首相は選挙結果を踏まえ、イギリスの有権者はEUに不満を持っている、EUを変えていく必要があると発言した。しかしながら、EUで大きな力を持つ次期欧州委員会委員長の選任問題もあり、どの程度EUを変えられるかは不透明だ。

6月5日には補欠選挙がある。キャメロン首相の保守党に所属していた下院議員が議員の倫理基準に違反し、辞職したための補欠選挙である。この選挙区は保守党が非常に強く、保守党候補が勝つと見られている。恐らくUKIPの候補者は次点となるだろうが、どの程度の差となるか注目される。

2015年5月の総選挙まで、あと11か月となったが、UKIPの動向を見ながら選挙準備が進められることとなる。主要3政党の票がUKIPに流れ、保守党も労働党も過半数を占める議席を獲得できず、いわゆるハングパーリメント(宙づりの議会)となるという見方が強まっている。もし党首討論が行われれば、下院に議席がなくともUKIPを含んだものとなるだろうが、ファラージュ党首は難敵である。

### 3. UKIP 躍進の理由と今後

UKIP の躍進した理由には 2 つの面があると思われる。UKIP の主張とそのリーダーである。

British Election Study による UKIP への支持の出所  
[http://www.britishelectionstudy.com/bes-findings/ukip-picking-up-lumps-of-old-labour-support/#.U41tXOYU\\_ml](http://www.britishelectionstudy.com/bes-findings/ukip-picking-up-lumps-of-old-labour-support/#.U41tXOYU_ml)

票の出所	割合
保守党	51%
労働党	12%
自民党	17%

UKIP の主張は、極めて明快である。多くの有権者が問題だと感じていることを、イギリスが EU から離れることで解決できるという立場を取る。特に関心の高い移民の問題では、EU から離脱すれば、EU 内の移動の自由を守る必要がなく、自由に制限できる。政策の詳細よりも、明快な議論で有権者を惹きつけているようだ。主要 3 党は一般に既成の枠組みの中で細かな議論に終始しており、わかりにくいのは対照的だ。

さらにリーダーである。ファラージュ党首にはカリスマがある。わかりやすい表現を使い、明快な議論をする。そのため、単に EU の問題に関心のある人たちだけではなく、政権政党や既成政党への批判票を集めている。

一方、労働党のミリバンド党首にはカリスマがない。政策を苦勞して絞り出しているという印象を受けるが、個別の政策は有権者から支持されても、ミリバンドにカリスマがないため、労働党への支持に直接つながっていない。

自民党の党首クレグ副首相は、世論調査で、有権者からの評価が記録上最低となった。自民党にはクレグ交代論が噴出したが、自民党内で大きな影響力を持つ、元党首のアッシュダウン卿の支持があり、交代の可能性は少ない。2010 年総選挙後、保守党と連立政権を組んで以来、マニフェスト約束違反やその中道左派の考え方と相容れないなどで支持を失い、立ち直れないままである。しかもファラージュ UKIP 党首にテレビ討論を申し入れたが、討論後の視聴者の評価ではファラージュに大敗するなど戦略上のミスもあった。イギリス経済の回復に果たした役割は大きく、保守党の行き過ぎに歯止めをかけるなど、自民党の貢献度は大きい、多くの有権者から全く評価されておらず、宙に浮いたような存在となっている。

保守党の党首キャメロン首相は、保守党支持票の UKIP への流出を防ぐため、2017 年の EU 国民投票の実施を約束したが、保守党の議論は UKIP の議論と比べるとわかりにくい。しかも保守党の「嫌な党」イメージを変え、リベラルな有権者の票も獲得しようと同姓結婚を推進したが、これが伝統的な支持層の離反を招いている。多くの有権者がキャメロン首相は首相らしいと見なしているが、それが保守党の政策への信頼に必ずしもつながっていない。

一方、UKIP は、次期総選挙に向けて国内政策を整え始めた。その手始めは、税制である。最低賃金(現在の時給 £6.31 (1,080 円))で働いている人たちの所得税をゼロとし、しかも最高税率の 45%を 40%に下げの方針を明らかにした。前者も後者もかなりの税収減となると見られているが、それぞれ労働党支持層と保守党支持層の票の獲得を目指したものである。さらにこの税制案の財源を確保するため、財政緊縮の中でもキャメロン首相が毎年大きく増加させている海外援助費を削減することを考えている。海外援助費は 2015 年度には 122 億ポンド(2 兆円)になる予定である。イギリスでは賃金が上がらないのに物価が上がり、国民が生活費危機で苦しんでいるにもかかわらず海外援助を大きく増やすことに批判的な人々を惹きつけることができる。

保守党も労働党も政策の小さな違いを強調して有権者の関心を引こうとする時代は終わったように感じる。いずれの政党にも大胆な政策が必要だ。

スコットランド・インバネスの  
自民党下院議員オフィス



## 4.住宅価格が1日10万円上昇するロンドン

政府の土地登記所によると、実際の売買価格に基づいた平均住宅価格はロンドンで£435,034（7,440万円）であり、昨年同時期と比べると17%のアップ。4月には1日当たり£588（10万円）上昇した。イングランドとウェールズでは6.7%のアップで平均価格は£172,069（2,940万円）。

価格の上昇が鈍化しているという見方があるが、住宅の供給が不足している中、解決は困難だ。政府は建築許可制度の緩和などを実施しているが、大幅改革には特に保守党支持層や環境保護団体などが反対している。

イギリス人は持ち家を好む傾向がある。住宅は長期的には価格が上がると考えられており、家を借りて家賃を払うよりも、一定割合の自己資金が必要だが、住宅ローンを借りて最初の住宅を買えば、その価値が次第に上昇し、それをもとに大きな住宅に買い替えることができる。これは「住宅階段（Housing ladder）」と言われる。

イギリス経済が回復し、多くの人たちが今後の経済の行方に自信を持ち始めてきたために需要が増加している。さらに特にロンドンの住宅を中東やアジア、東欧などの外国人が投資対象としてみる傾向が強まっている。

住宅価格の高騰の原因の一つは、政府の住宅ローン保証策である。様々な制限が付け加えられているが、政策金利の上昇が必要だと考えられており、現在の0.5%が来年早々までには上昇すると予想されている。

スコットランド・ブローラの鉄道橋



### 雑記

5月下旬にスコットランドに妻とウォーキングに出かけた。スコットランドの北の端からコーンウォールの西の端までグレートブリテン島を縦に歩くルートの一部である。前は、ジョン・オグローツからヘルムズデールというところまで歩いた。今回はヘルムズデールからインバネスまでである。

ロンドンから夜行列車でエディンバラへ、そしてインバネス、さらにヘルムズデールまで向かった。都合17時間近い旅だ。それでも、夜行列車から見る日の出は格別だった。列車がスコットランドに入り、両側に広がるなだらかな丘にはヒツジや牛が散らばっている。丘の上には風車も見える。スコットランド政府は風力発電に力を入れている。

もし、スコットランドがこの9月の住民投票の結果独立すれば、イングランドとの国境はどうなるのか？イギリスの北アイルランドとアイルランド共和国との国境のようになるだろう。つまり、地図上に国境は存在するが、国境の検問所のようなものはない。車で通りすぎても気づかないほどである。

エディンバラ駅に到着し、午前7時過ぎにプラットフォームに降り立つと肌寒かった。誰もがスコットランド訛りで話している。お昼過ぎ、インバネスで待合所に入ると暖房が入っている。乗った電車にも暖房が入っていた。宿では電気毛布の使い方を教えてくれた。

翌日から7日間スコットランドを歩いた。ぐずついた天気の日も多かったが、最後の2日間はいいい日和だった。鳥のさえずり、川のせせらぎに耳を傾け、かつて6年近く住んだところではあるが、スコットランドの自然資源の豊富さに改めて気づいた。

## 5. スコットランドの反イングランド感情

イギリス本土での最後の会戦は、1746年4月16日のカロデンの戦いであるが、この戦いはスコットランドの反イングランド感情を象徴するように思われる。

スコットランド出身のステュワート朝の後継者チャールズ・エドワード・ステュワートの祖父は名誉革命で王位を追われたジェームズ2世(スコットランドのジェームズ7世)。王位奪還のためスコットランドの氏族らを率いてイングランド側(政府軍)と戦った。この戦いでスコットランド側は大敗し、チャールズは国外に逃れ、多くの兵士がイングランド側に虐殺された。

この戦いの戦場は、スコットランドの北のインバネス近郊にある。立派なビジターセンターがあり、実際の戦場の陣地を示す旗が立てられ、35分ほど歩いて回り、説明を読める。

そこにはここで戦った氏族(クラン)ごとの数が石碑に示されている。スコットランドでは、今でもこの氏族が強く意識されている。センターはなるべくこの戦いを中立的に表示しようとしているように感じられたが、スコットランド人やスコットランド人の末裔のアメリカ人の観点では、イングランド側について氏族もあるが、イングランド側が過去にスコットランドに対して暴虐な扱いをしたように見える。

スコットランドの愛国心を掻き立てるには便利かもしれないが、こういう歴史的事実があると、スコットランド人から反イングランド感情をなくすのは難しいように思われる。

カロデン・ビジター・センターの陣地説明



## 6. サッカー選手ジョーイ・バートン

BBCの人気テレビ政治番組「クエスチョン・タイム」は政治家、ジャーナリスト、コメンテーター、コメディアンなどを招き、聴衆からの時事問題の質問に対して答える番組である。この番組にサッカー選手のバートンが5人のパネリストの一人として招かれた。

バートンは、1982年9月2日生まれの31歳。プレミアリーグに復活昇格したクイーンズ・パーク・レンジャーズ(QPR)のミッドフィルダーである。

バートンはこれまで数々の物議をかもしてきた。暴力事件で2度有罪判決を受け、刑務所で服役したこともある。規律の問題もあり、クラブやイングランドサッカー協会(FA)から何度も懲戒処分を受けている。

特に印象深いのは2011-2012年シーズンの最終日にQPRがプレミアリーグ生き残りをかけて、リーグ優勝を狙うマンチェスター・シティと対戦した時のことだ。バートンはテベスに対するひじ打ちでレッドカードを受けたが、その後、アグエロを後ろから蹴り、コンパニに頭突きをしようとした。信じられない光景だった。その結果、12ゲームの出場禁止処分を受けた。

カッと反応して事件を起こす傾向のある、驚くべき過去を持つ選手であるが、そのツイッターは有名である。政治、社会問題から哲学上の問題まで多様な話題にコメントし、現在は250万を超えるフォロワーを持つ。

それに注目したのだろう、BBCがバートンを招き、サッカー選手の「哲学者王」と紹介された。サッカーの選手でこの番組に登場したのは、2人目だそう。UKIPに関するコメントがメディアで大きく取り上げられたが、これからも何度も登場しそうだ。

将来サッカーのコーチとなろうとしており、欧州サッカー連盟(UEFA)のAコーチングライセンスを今夏に終了する。昨年9月からローハンプトン大学で哲学を学び始めているほか慈善事業にも関係している。

「問題児」だが憎めない人物バートンの今後が注目される。

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み : tomo@kikugawa.co.uk